

映画に出演
名古屋の男性

水俣病の実態を世界に伝えた米国人写真家の生涯を描いた公開中の映画「MINAMATAーミナマター」に、名古屋市天白区のアコーディオン奏者、橋川宗明さん(22)が出演している。出演を機に、水俣病患者の思いや今も続く苦しみに触れた。「水俣の問題は過去のものではない。同じことが二度と繰り返されないよう、映画が公害問題について考えるきっかけになれば」と話す。(斉藤和音)

今こそ

MINAMATA

公害繰り返さぬよう

映画は、一九七〇年代に水俣で三年間を過ごして世界に病を告発した米国人写真家ユージン・スミスさん(一九一八〜七八年)を描いた作品。橋川さんはアコーディオンを弾く少年役として出演した。胎児性水俣病を抱える実在の人物がモデル。二〇一九年の撮影当時は名古屋芸術大の二年生だった。アコーディオンの国際コンクールでの活躍を伝える大学のホームページが製作チームの目に留まり、オファーが来た。演技経験はなく、撮影は海



映画「MINAMATA」に出演したアコーディオン奏者の橋川宗明さん＝7日、名古屋市昭和区の昭和文化小劇場で(浅井慶撮影)

外。不安も大きかったが「人生でなかなか経験できることではない。自分のキャリアにとって良い経験になる」と挑戦を決めた。劇中の出番はわずかだが、俳優ジョニー・デップさん演じるユージンさんが水俣で雨の降る中、アコーディオンを奏する少年に、その地で初めてカメラを向けるという印象的なシーンを託された。

出演するまで、水俣病は「四大公害病」の一つとして小学校の社会科の授業で習った程度だけに思えた。撮影終了後、デップさんから「君の演奏のおかげで映画がより良いものになったと確信している。日本の公害問題と向き合った作品に携われたことを誇りに思えた。」

映画「MINAMATA」の写真家ユージン・スミスと元妻のアイリーン・美緒子・スミスが、一九七五年に発表した写真集「MINAMATA」に基づく物語。ユージンがアイリーンとともに熊本県水俣市を訪れ、工場排水によって苦しむ住民や抗議運動など被害の実態をカメラに収めていく姿を追った。登場人物は実在の患者らがモデルになっている。ユージンをジョニー・デップが演じたほか、真田広之や美波、浅野忠信、国村隼らが出演する。

水俣病 熊本県南部の水俣市で、チツソの工場が毒性の強いメチル水銀を含む排水を不知火海に流し、汚染された魚介類を食べた人々が手足のしびれや視野狭窄(きょうさく)などを訴えた。一九五六年に最初の患者が公式確認され、65年には新潟県の阿賀野川流域でも確認。二〇二〇年10月末までに二九98人が患者として認定されたほか、水俣病被害者救済法により約3万8000人が被害を認められた。いままも患者認定や損害賠償を求める訴訟が起きている。

出演に導いてくれたのは六歳から続けているアコーディオン。国際コンクールで優勝するなどの実績を重ね、今春からはプロとして活動し、音楽配信サービスでファーストシングル「Nobody」も発表した。出演で改めて感じたことがある。「当たり前前に音楽ができていた。今の環境は当たり前じゃない。演じた役のモデルとなった少年は、つらい境遇の中でも音楽と向き合っていた。感謝の気持ちを忘れてはいけないと心に刻んだ。」

映画のエンドロールでは、世界中の公害問題を伝える写真が流れる。「SNS(会員制交流サイト)でもニュースでもなく、映画で知るといって新しい経験が公害について考えるきっかけになれば、水俣の方もうれしいのかなと思います」

新しい目標もできた。いつか、熊本でチャリティーライブをできたらと考えている。